

会報 と や ま

第77号
令和4年1月発行



砺波チューリップ公園上空のブルーインパルス
6機が旋回して巨大な円を描く 演目「さくら」(令和3年4月)

提供「砺波市役所」

年頭のご挨拶

(一社)富山県測量設計業協会長	市森 友明	……	1
富山県知事	新田 八朗	……	2
国土地理院北陸地方測量部長	伊藤 純一	……	3
富山県土木部長	江幡 光博	……	4
富山県農林水産部長	堀口 正	……	5

特別寄稿

国道8号立体事業について— 都市圏での環状道路必要性 — 北陸地方整備局富山河川国道事務所 副所長	杉本 敦	……	6
--	------	----	---

富山情報ビジネス専門学校の地域人材育成について 学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校 校長	能登 一秀	……	11
--	-------	----	----

会員寄稿

地域企業に必要な「地域志向的モチベーション」 株式会社 新日本コンサルタント 代表取締役社長	市森 友明	……	13
--	-------	----	----

『節目の四半世紀を迎えます』 有限会社 岩田測量設計 代表取締役社長	岩田 浩明	……	15
--	-------	----	----

～入社してからの事・今後の事～ 株式会社 協和測量設計 測量課	宮川 記代	……	16
------------------------------------	-------	----	----

測量設計業界に入って感じたこと 北陸コンサルタント株式会社 設計部設計第二課	三宅明日香	……	18
---	-------	----	----

朝日コンサルタンツ株式会社 技術部	中橋 萌夏	……	19
-------------------	-------	----	----

女性が望む職場環境

～「女性の集い」を実施して～

副会長 金木 春男 …… 20

協会の活動紹介

・ 理事会	会 長 市森 友明 ……	23
・ 総務委員会	委員長 金木 春男 ……	24
・ 技術・経営委員会	委員長 寺島 雅峰 ……	24
・ 事業報告	……………	27

会員名簿	……………	37
------	-------	----

運営組織図

協会運営組織図	……………	42
---------	-------	----

令和3年度（一社）富山県測量設計業協会長表彰

（永年勤続表彰） …… 43

会員数の推移	……………	43
--------	-------	----

編集後記

年頭のご挨拶



(一社)富山県測量設計業協会

会長 市森友明

新年あけましておめでとうございます。

令和4年の新春を迎え、協会員の皆様方をはじめ日頃から当協会の運営に対して、ご理解とご支援を頂いております関係機関の皆様方のご健勝を心からお慶び申し上げます。昨年は、コロナ禍ということもあり、例年と多少雰囲気異なって迎える新年でありましたが、延期された東京オリンピックも無観客ではありましたが、無事開催されました。ワクチン接種率も先進諸国の中でも高く、あらためて日本人の危機意識の高さを感じる次第です。本稿が発刊されているときの状況は予測できませんが、無事第6波を乗り越え、このままコロナが終息に向かうことを、心より願っております。

昨年の災害を振り返りますと、令和3年7月1日に伊豆諸島で線状降水帯が発生し、日降水量が300ミリを超える大雨となり、2日から3日かけて、東海地方、関東地方南部に拡大し、静岡県においては複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど、記録的な豪雨となりました。7日は中国地方日本海側でも線状降水帯が発生し、日降水量が300ミリを超える大雨となり、9日には鹿児島県さつま町で500ミリを超える記録的な大雨となりました。内閣府の発表(11月4日)によれば、この大雨で、26名もの尊い人命が失われました。想定を超える外力の発生が昨年同様に発生し、それにより想定を超える被害が毎年発生している状況に対して、ソフト対策のみならず、堅実な社会インフラの整備で対応していかなければ、効果的な防災・減災は困難であると、あらためて、感じさせられました。

また、このような気候変動によるリスクは、東証の上場企業に対しても影響を及ぼしています。本年4月の市場再編後の「プライム市場」では、国際組織の気候関連財務情報開示タスクフォー

ス(TCFD)の提言に沿った、企業の気候変動リスクに対するリスク開示が要求されます。洪水などの自然災害は物理的リスクとして見込み、その対処シナリオを策定する必要があるようです。このように水害は、企業経営のみならず、金融や証券の分野でも、年々重要視されつつあります。

測量設計業界は、水害だけでなく、様々な災害に対応する防災インフラに携わっておりますが、技術研鑽のみならず、気候変動に対するこのような社会経済情勢をも知識として取り込み、そして発注者様のご要望に、災害対応時だけでなく、日頃の業務においても意識高く取り組まなければならないと感じています。

さて、当協会の話題となりますが、一昨年より取り組みはじめた、担い手育成における測量士の専門学校ですが、民間の専門学校様の献身的なご協力により、本年4月に開校の見通しであります。当協会としても、物心両面で全面的にご協力したいと考えております。一方で、高校生への入学案内活動での状況は、建築士やCADコースへの希望者はあるものの、測量士コースにはほとんど希望者がいないという状況をお聞きしました。高校生に対する測量設計業の認知度が極めて低いことを痛感した次第であり、本年度より、PRビデオの配布や、担い手育成委員会による、各高校への業界の訴求活動も実施する予定であります。一人でも多くの高校生の方々が、測量士を目指していただければ幸いであり、協会としても初めての取り組みとして、努力する所存です。

最後になりますが、今後とも当協会並びに会員企業に対し、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしく願いいたします。

年頭のご挨拶



「幸せ人口1000万」ウェルビーイング先進地域を目指して

富山県知事 新田 八郎

明けましておめでとうございます。令和4年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。

さて、私は、令和2年11月の知事就任以来、「県民目線」、「スピード重視」、「現場主義」を大切にしたい県政運営に努め、県民の皆様にお約束している8つの重点政策・88の具体策にも誠心誠意取り組んでまいりました。

昨年は、新たな成長戦略の策定を進めるとともに、「ワンチームとやま」連携推進本部会議による市町村との連携・協力の強化や、行政、産業・地域社会のデジタル・トランスフォーメーションの推進等を着実に進めてきたところです。

一方で、新型コロナウイルス感染症の再拡大や記録的な大雪、高病原性鳥インフルエンザの発生など、県民の皆様への命や暮らしに関わる重大な事案に見舞われました。

これらの困難に対応し、乗り越えていくなかで、県民の皆様が豊かで安心して暮らせる社会の実現に取り組んでいく決意を新たにしています。

依然として、新型コロナウイルス感染症の影響が続いていますが、県としましては、県民の皆様への命と暮らしを守ることを最優先課題として、引き続き感染拡大防止対策や経済対策に取り組み、県民の皆様とともに、この危機を乗り越えてまいります。

同時に、ビヨンドコロナを見据えた新しい富山県

の未来をつくっていかねばなりません。

これからは、収入や健康といった外形的な価値だけでなく、自己実現、周囲の人間関係や地域社会とのつながりなども含めて、自分らしくいきいきと生きられること、主観的な幸福度を重視した「真の幸せ」（ウェルビーイング）を目指すことが、県民の皆様のやる気や意欲につながり、結果として、経済・社会の活力をさらに高めるものと考えています。

このため、現在議論を進めている新たな成長戦略では、県民の皆様のウェルビーイングの向上を図ることにより、次世代の価値を生む人材が富山に育ち、また、県外から引き寄せられて本県に集積することを核に据えることとし、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」をビジョンとしていきたいと考えています。

本年も、県民の皆様とワンチームとなって、笑顔と希望に満ちあふれ、チャンスがあり、夢を叶えることができる、ワクワクすることがたくさんある富山県の実現に向けて一層努力してまいります。

新年にあたり、県民の皆様への県政に対するご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

年頭のご挨拶



国土交通省 国土地理院 北陸地方測量部

部長 伊藤 純一

あけましておめでとうございます。

一般社団法人富山県測量設計業協会及び会員の皆様方には、日頃から国土地理院の業務にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、繰返し発出された緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に伴い、国土地理院でも、様々な行事について、中止や延期、Web開催などの対応を行いました。また、一昨年から引き続き職場内での基本的な感染対策のほか、時差出勤、テレワークも実施しました。

新型コロナウイルス感染症対策を契機とした非接触・リモート型の働き方への転換、抜本的な生産性や安全性向上を図るためのインフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（DX）のより一層の推進が課題となっています。

国土地理院では、国土交通省が推進するi-Constructionや自動運転など、インフラ・物流、まちづくり等のDXに不可欠な位置情報基盤の基準である国家座標を整備するとともに、デジタルツインに不可欠な3次元点群データの整備を行っています。また、測量分野におけるi-Constructionを推進するため、ICTを活用した公共測量マニュアルや公共機関における高品質で規格の統一された3次元地図の整備に必要な基準整備を進めています。これらは、公共測量だ

けでなく、測量関係者が円滑、かつ、効率的に測量を実施できる環境を整え、また、建設現場における生産性の向上にも貢献できるものと考えております。

近年の激甚化・頻発化する自然災害から国民の命と暮らしを守るため、国土地理院では、国土を「測る」「描く」「守る」「伝える」という4本の施策を柱として業務に取り組んでいます。災害リスクの明確化や迅速な被災状況の把握が可能となる地理空間情報の整備・提供、迅速な復旧・復興に資するため災害発生時においても電子基準点網による地殻変動監視や位置情報サービスの継続、過去の被災状況を伝える自然災害伝承碑、土地の成り立ちやその土地の持っている自然災害リスクを示す地形分類データなどの整備・更新を進め、地域における防災意識の向上と、減災に向けた取組や地理教育・防災教育への支援を行っています。今後も、強靱な国土づくりのための防災・減災に資する取組を一層進めていきます。

貴協会の皆様には、昨年同様、お力をお借りすることになるかと思いますが、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様の益々のご発展ご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶



富山県土木部

部長 江幡 光博

明けましておめでとうございます。令和4年の年頭にあたり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

皆様には、日頃より本県の土木行政の推進に一方ならぬご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

県では、県土強靱化と地域経済の活性化の双方の達成を目指す「令和の公共インフラ・ニューディール政策」により、計画的かつ強力に社会資本の整備を進めることとしています。具体的には、神通川の改修や立山砂防をはじめとした治水・海岸・土砂災害対策や歩道の整備など県民の命と暮らしを守るための社会資本整備、富山高山連絡道路や国道8号入善黒部バイパス、県道高岡環状線などの県内道路網の整備や伏木富山港の機能強化など活力ある地域づくりのための社会資本整備を推進するとともに、橋梁やトンネルなどの道路施設、水門などの河川施設、公園施設などのインフラの老朽化対策にも取り組んでまいります。

昨年は、国道415号富山東バイパスの東富山跨線橋や県道宇奈月大沢野線の魚津市袋から石垣新の区間が開通しました。また、国道8号中島本郷立体の新規事業化、利賀ダム河床進入トンネルの貫通、東海北陸自動車道南砺スマートIC～小矢部砺波JCT間の一部4車線化の完成

など、県内の社会資本整備が着実に進んでいます。

県内建設産業の皆様には、こうした社会資本の整備、維持更新はもとより、災害時の緊急対応、また、昨年1月の大雪の際には道路交通確保のため連日除雪作業に従事していただくなど、地域の安全・安心の確保にも多大なご貢献をいただいております、あらためてお礼を申し上げます。

地域の安全・安心の守り手である建設産業の皆様が将来にわたり活躍していただくためには、担い手の確保・育成や経営基盤の強化が重要です。このため県では、安定的な公共事業予算の確保や施工時期の平準化に努め、週休2日の推進、生産性向上に向けたICT機器やWEB会議システム導入に対する補助、若者・女性向けの現場見学会の開催、県内の高校等へのPR動画やPR誌の配布などに取り組んでいます。

今後とも、建設産業の皆様方のご意見をお聞きしながら、できる限りの支援をしてみたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

終わりに、皆様方のますますのご発展、ご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

年頭のご挨拶



富山県農林水産部

部長 堀 口 正

令和4年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

富山県測量設計業協会員の皆様方には、日頃から本県の農林水産行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り心からお礼を申し上げます。

昨年は、林道有峰線「小見区間」2車線化工事や農地整備事業「南般若地区」の用水路工事等が完成いたしました。また、農地大区画化の国営農地再編整備事業「水橋地区」が着手されるなど、おかげをもちまして、県内の農林水産生産基盤の整備は着実に進んでいるところです。

このような中、昨年8月には豪雨に見舞われ、県内で地すべり等の災害が発生しました。その際、協会員の皆様には、災害復旧工事に向けて迅速に対応していただいたことに厚くお礼申し上げます。また、地域社会の発展や住民の安全・安心を守る様々な事業の基礎となる測量設計に携わっておられる皆様の役割と重要性を認識したところです。

さて、農林水産業は、人口減少に伴う国内市場の縮小、後継者不足や頻発する自然災害など、多くの課題を抱えており、国においては、新たな「食料・農業・農村基本計画」等を策定し、農林水産業の成長産業化、国土強靱化や森林資源の適切な管理等を実現するための支援を強化することとされております。

県におきましても、農業の生産コスト低減や高収益作物への転換を促進し農業の競争力を強化するため、農地の大区画化・汎用化等の農業生産基盤の整備を積極的に行い、「高品質で美味しい富山米」のブランド強化や園芸の生産拡大、ICTを利用したスマート農業などをより一層推進することとしております。

また、日本一の安全・安心県を目指した「富山県国土強靱化地域計画」を踏まえ、農山漁村の防災・減災対策、農林水産施設の長寿命化対策、治山事業や地すべり事業などの土砂災害対策や漁港施設における地震・津波対策など、強い農林水産業の基盤づくりや災害に強く強靱な県土づくりを着実に進めるとともに、今後とも建設産業が健全で活力があり、そこで働く人々にとって魅力ある産業として発展できるよう、引き続き支援してまいりたいと考えております。

皆様方には、新しい時代にふさわしい取組みを果敢に進められますとともに、これまで以上に技術力の研鑽並びに測量技術の普及・活用に努められますよう、よろしく願いいたします。

結びに、富山県の発展と県民の皆様の幸せのために、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

特別寄稿

国道8号立体事業について — 都市圏での環状道路の必要性 —

北陸地方整備局 富山河川国道事務所 副所長

杉本 敦

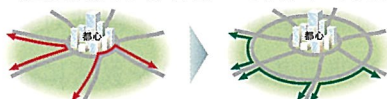
1. はじめに

現在、富山市内の国道8号では「豊田新屋立体（2.9km）」及び、「中島本郷立体（7.4km）」が事業中です。

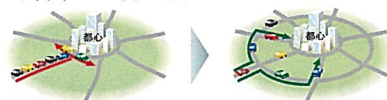
この事業は、国道8号の渋滞緩和等を目的に事業を実施しているが、通過車両等が混在した交通で集中する都心部への流入抑制を目的に構想された「富山外郭環状道路」の一部であり、渋滞等により、都市の交通機能が低下したものを改善し、スムーズな交通を実現することにより、都市構造の再編等をもっと自由に考えることが出来るきっかけになると考えています。

【環状道路に期待する効果】

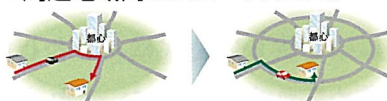
効果①：通過交通の都心部への流入を抑制



効果②：郊外から都心部への交通を分散導入



効果③：周辺地域間のスムーズな移動

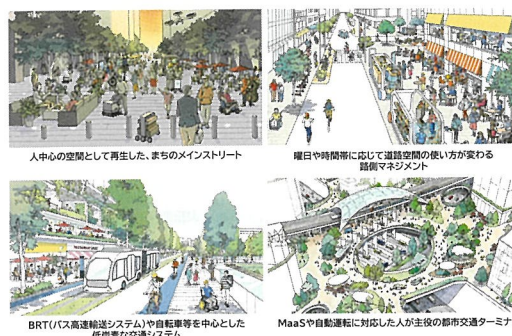


効果④：災害や事故発生時における迂回路の確保



富山市では、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを展開しているが、今後、まちづくりの骨格となる環状道路が整備されることにより、通過交通が減った中心市街地の道路がより自由な発想で計画・整備される

ことを期待しつつ、環状道路の効果や事業の状況について、紹介します。



道路空間再配分で出来ること

※2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～(国土交通省)より

2. 富山外郭環状道路の概要

「富山外郭環状道路」は、日本海側の大動脈である国道8号がその一部を構成し、北陸自動車道、国道41号と一体となって規格の高い幹線道路ネットワークを形成する道路で、平成10年6月に、地域高規格道路の計画路線として指定された約40kmの環状道路です。

現在、北側に位置する国道8号において「豊田新屋立体（2.9km）」及び、「中島本郷立体（7.4km）」が事業中です。

【道路交通の現状・課題】

「富山外郭環状道路」が計画されている富山市中心部には、北陸新幹線富山駅、路面電車駅、富山空港等の交通拠点や、多くの企業、商業施設等が立地していることから、面的に慢性的な渋滞が発生しており、交差点改良等で渋滞対策は実施しているが、根本的な解決に至ってない。また、交通事故、バスの定時制確保等も課題となっています。

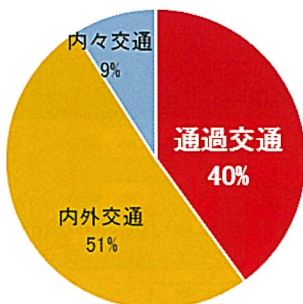


中心部に多く存在する主要渋滞箇所



国道8号（本郷東・西交差点付近）

富山市中心部における交通をETC2.0のデータを用いて分析したところ、「通過交通」が約4割を占めていることから、環状道路の整備することによって中心部への流入を抑制され、渋滞緩和等の効果が期待出来ます。

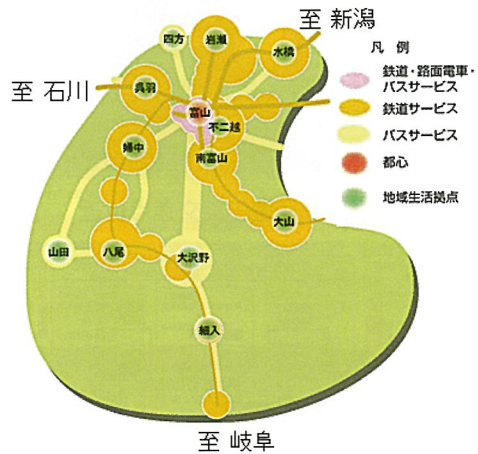


富山市中心部の交通内訳

富山市では、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを展開しており、環状道路を整備することにより、通過交通が無く

なり、渋滞等が減少すれば、公共交通を生かした自由な道路空間の再構築が可能になります。

富山市が目指すお団子と串の都市構造
串：一定水準以上のサービスレベルの公共交通
お団子：串で結ばれた徒歩圏



まちづくりの概念図（富山市都市マスタープラン）



(主)富山高岡線(富山市五福)で渋滞の中を走行するバス

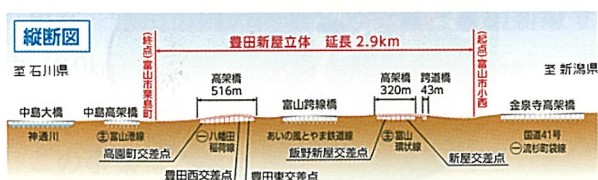
このほかにも、事故、物流、まちづくり、災害時などの各課題に対し、富山外郭環状道路が整備されることで、交通の円滑化、交通安全の確保、地域産業の活性化、快適・安心な暮らしづくり、災害に強い道路ネットワークの確保等の効果が期待されます。

3. 豊田新屋立体事業

「豊田新屋立体事業」は、国道8号の富山市小西～同市粟島町間（延長2.9km）において、幹線ネットワークの充実強化、交通渋滞の緩和、死傷事故の削減等を目的とする立体（高架）化事業です。



国道8号豊田東交差点付近



平成21年度に事業化され、現在、用地買収、道路改良工事、跨線橋の下部工事等を実施中です。

年度	主な経緯
平成20年度	都市計画決定
平成21年度	事業化
平成26年度	用地着手
平成23, 26年度	事業再評価（指摘事項なし、継続）
平成29年度	工事着手

事業の経緯



富山跨線橋ランプ橋付近

【広報活動】

本事業では、事業の概要や進め方、進捗状況や当面の予定などを地元住民（約4,000世帯が対象）や沿線店舗等にお知らせし、円滑な事業進捗を図るため、平成25年9月に「豊田新屋ニュー

スレター」を創刊し、概ね年4回、令和3年7月までに、第30号までを発刊しています。



創刊号

最新号

また、富山河川国道事務所HPの特設サイトや、Twitterで、幅広く道路利用者のみなさまに情報発信も行っています。

Twitterによる情報発信



～未来の富山 交通シミュレーション～
 県内一交通量の多い国道8号の2.9km区間で、
 交差点の立体化により幹線ネットワークの強化&渋滞の緩和、
 死傷事故の減少を！
 豊田新屋立体事業により生まれ変わった、リアルな富山の道路・街並みをぜひご覧ください🚗
 #富山 #道路



午後7:02 · 2021年6月2日 · Twitter Web App

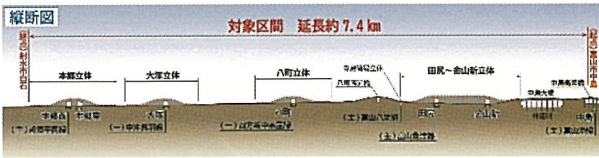
■豊田新屋立体HP
<http://www.hrr.mlit.go.jp/toyama/common/old/toyotaaraya/>

4. 中島本郷立体事業

「中島本郷立体事業」は、国道8号富山市中島～射水市白石間（延長7.4km）において、円滑な交通確保、交通事故削減、地域産業の活性化支援等を目的とする立体（高架）化事業です。



国道8号田尻交差点付近



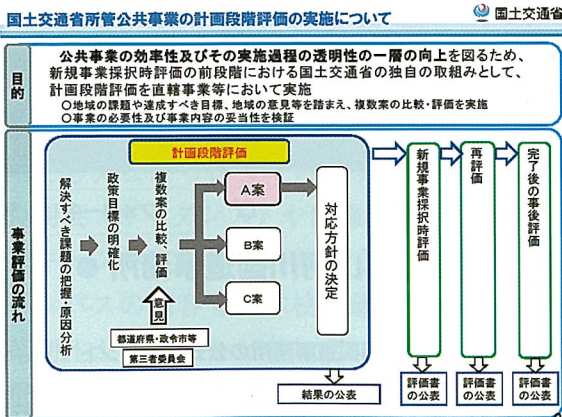
令和3年度に新規に事業化され、現在、測量や地質調査等を進めています。

年度	主な経緯
平成31年2月	計画段階評価着手
令和2年3月	計画段階評価完了
令和3年2月	都市計画決定
令和3年3月	新規事業採択時評価
令和3年度	事業化

事業の経緯

【事業着手までの取組】

本事業では、事業着手前の手続きとして、「計画段階評価」を実施しました。



「計画段階評価」とは、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性を一層向上させる観点から国土交通省独自の取り組みとして実施するもので、「社会資本整備審議会 道路分科会 北陸

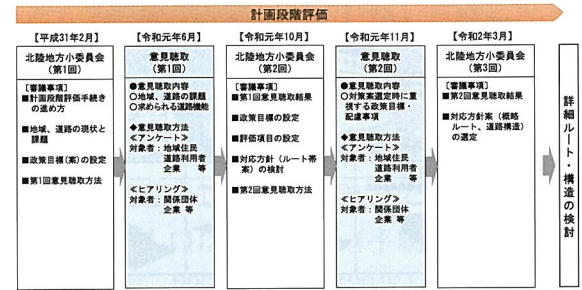
地方小委員会（委員長：長岡技術科学大学 佐野教授）」で3回の審議を経て対応方針（案）を決定しました。

【実施内容】

- 地域の課題や達成すべき目標、地域の意見を踏まえ複数案の比較・評価を実施
- 事業の必要性及び事業内容の妥当性を検証

1-4. 計画段階評価の検討の流れ

●地域住民や道路利用者の意見を踏まえ、対応方針(概略ルート、構造等)について検討を行う。



本事業で実施した計画段階評価の流れ

途中、意見聴取（アンケート調査等）を2回行い、地域の意見の把握に努めました。

アンケート実施時に用いたチラシ

調査対象	調査方法		配布数		回収数	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
地域住民	沿線住民	市報による配布・郵送回収	1,800	1,800		
	周辺住民	市報アンケート・郵送回収	1,550	1,550	459	1,016
	一般市民	女性団体 Webアンケート	100 —	700 —	—	335
事業関係	製造業等	富山県工務課 会報等による配布・郵送回収	5,520	3,380		
	運送業	富山県トラック協会 会報等による配布・郵送回収	1,330	1,330		
		石川県トラック協会 会報等による配布・郵送回収	585	590	258	1,797
		新潟県トラック協会 会報等による配布・郵送回収	830	830		
合計		12,345	10,820	1,050	3,321	
回収率				8.5%	30.7%	

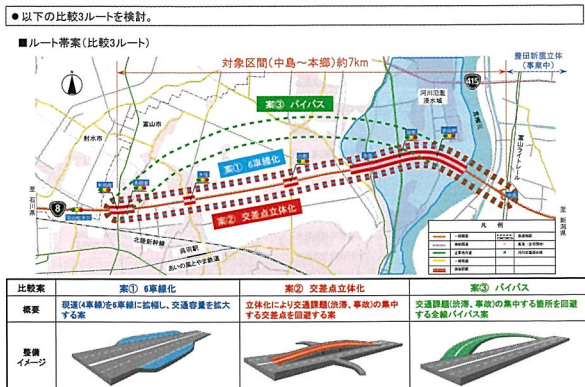
アンケート調査の概要

地域・道路交通の状況と課題、地域の将来像等を踏まえた政策目標を設定し、これら政策目標を達成するための道路整備方針を検討したところ、

- ① 6車線化
- ② 交差点立体化
- ③ バイパス

の3案を比較検討し、②交差点立体化を対策方針（原案）として第3回委員会にお諮りし、「妥当」の判断をいただきました。

3-1. ルート帯案



第3回委員会で提示した比較ルート帯案

3-3. 対応方針(原案)



第3回委員会で提示した対策方針(原案)

計画段階評価終了後、都市計画変更決定、新規事業採択時評価を経て、令和3年度に新規事業化となり、現在、測量や地質調査等を進めています。

5. まとめ

国道8号「豊田新屋立体」及び、「中島本郷立体」では、課題は沢山ありますが、一日でも早く完成し、事業効果を発揮出来るように、着実に事業に取り組んでいきたいと思っています。

また、「富山外郭環状道路」としては、北側

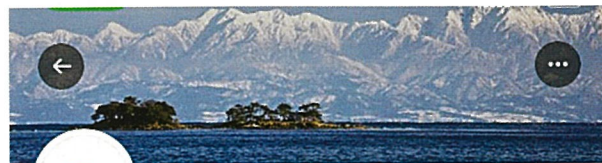
の一部区間の整備が始まったばかりであり、全体像をどうしていくか等は、関係機関と連携し勉強中の段階です。

完成までには、長い年月が必要となるが、富山駅を中心とした都心部の将来の姿を考える上でも重要なものであるため、都市圏の全体像を考えながら、関係機関と一緒に、環状道路の計画を煮詰め、事業を展開していけるように取り組んでいきたいと思っています。



中島本郷立体の完成イメージ

最後に、事業の進捗などをTwitterで情報発信していることを記載しましたが、大雨や大雪などで国道を規制することもあります。国道の規制状況や除雪状況等の情報も発信していますので、有事の際に見て役立てていただければと思います。



国土交通省富山河川国道事務所

@mlit_toyama

国土交通省富山河川国道事務所の公式アカウントです。「国道8号、41号、156号、160号、470号」や「常願寺川、神通川、庄川、小矢部川」に係る防災行政情報などを発信します。※発信専用のため、お問い合わせにつきましては事務所HPからお願いいたします。

特別寄稿

富山情報ビジネス専門学校地域の地域人材育成について

学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校

校長 能登 一 秀

1. 学校法人浦山学園

学校法人浦山学園は、射水市小杉に位置し、富山福祉短期大学（社会福祉学科、看護学科、幼児教育学科、国際観光学科）、富山情報ビジネス専門学校（情報システム学科、Webクリエイター学科、ホテル・ブライダル学科、医療事務学科、診療情報管理士研究科、インターナショナルビジネス学科、日本語学科）、金沢中央予備校を有し、小杉キャンパスにある短大と専門学校を合わせて約750名の学生が在籍しています。

「質実にして明朗な人格形成」、「専門的な学問とその応用を通して社会に貢献する人格形成」を建学の精神として、『地学一体』のコンセプトのもと、地域課題解決拠点としての教育・研究機関を目指しており、したがって、「地域のニーズに応えるような人材を育成・輩出し、地域創生・地域活性化にいかに関与するか」を常に意識し、教育活動を展開しています。

2. 18歳人口の減少と県外流出

上記学科の学生募集は、毎年苦勞しており、戦略を考えながら行っています。高校へ出向いて説明会（ガイダンス）や体験授業を行い、オープンキャンパスに来ていただく。そのオープンキャンパスの内容も、本校の魅力や競合他校との差別化がしっかりと参加者に伝わるよう工夫を重ね、一人一人を出願まで結び付けていく、という流れです。

学園全体としては、入学者数が多い年と伸びない年とまちまちですが、専門学校においては、学科によって偏りはあるものの、ここ数年少しずつ入学者数が伸びてきています。ただ、近年、

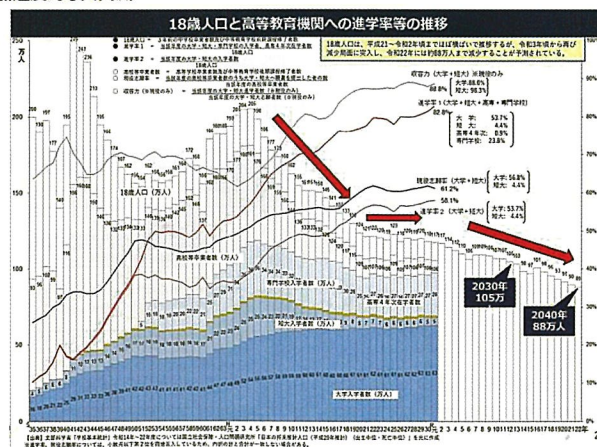
大学、短大、専門学校などの高等教育機関を取り巻く外部環境の変化をひしひしと感じるようになってきました。

■18歳人口の減少

下の表は、18歳人口と高等教育機関への進学者率の変化を表しているグラフです。これによると、18歳人口は、1992年（平成4年）に206万人でしたが、2008年（平成20年）には124万人となり、82万人減少しています。さらには、現在2021年（令和3年）は114万人ですが、20年後の2040年（令和22年）には88万人となり、26万人減少することが分かります。

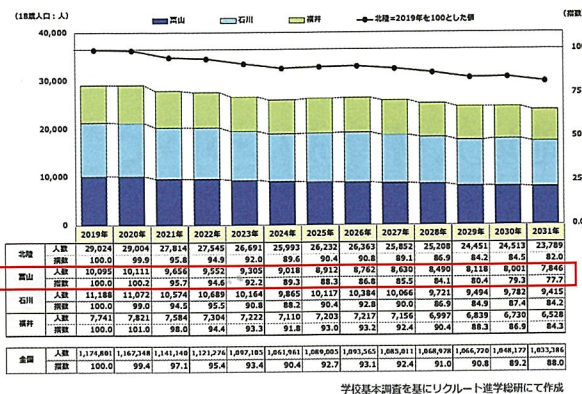
しかし、このような状況にあっても大学進学者数は増加傾向にあり、その分、短大や専門学校への入学者数が厳しくなっていると読み取れます。

加速度的な人口減



これを北陸三県で比較したものが次の表になります。2019年の18歳人口を基準とすると、富山県の変化は、12年後の2031年には、その77.7%となり、北陸三県では最も減少率が高いことが分かります。

18歳人口予測 (全体：北陸：2019~2031年)



県外流出

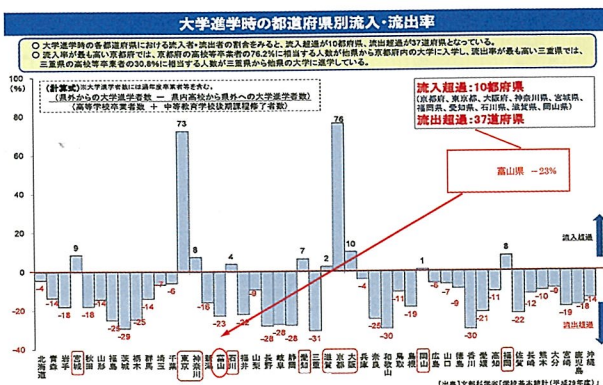
＜表3＞ 所在地別の進学状況

各年3月	区分	大学・短大 進学者総数	富山県	石川県	福井県	新潟県	関東	中部	近畿	その他
26	実数(人)	4,643	1,191	849	112	171	977	575	603	165
	構成比(%)	100.0	25.7	18.3	2.4	3.7	21.0	12.4	13.0	3.6
27	実数(人)	4,796	1,265	846	108	168	1,070	597	589	153
	構成比(%)	100.0	26.4	17.6	2.3	3.5	22.3	12.4	12.3	3.2
28	実数(人)	4,672	1,155	856	107	174	1,095	588	533	164
	構成比(%)	100.0	24.7	18.3	2.3	3.7	23.4	12.6	11.4	3.5
29	実数(人)	4,692	1,263	855	98	172	1,042	583	518	161
	構成比(%)	100.0	26.9	18.2	2.1	3.7	22.2	12.4	11.0	3.4
30	実数(人)	4,700	1,168	1,027	90	147	1,026	565	517	160
	構成比(%)	100.0	24.9	21.9	1.9	3.1	21.8	12.0	11.0	3.4

(注)・端数処理のため、各構成比を合計しても100.0%にならない場合がある。

この表は、富山県の大学・短大進学者が、どの地域・県に流れているのかを示したものです。経年でみると、大学・短大への進学を機に、富山県内に残るのが約25%で、残りの75%は県外へ流出していることがわかります。そして、その流出地域は、石川県への進学者が最も多く、関東圏への進学者数を超えています。

したがって、下の表にあるように、全国的にみても富山県は流出割合が大きい屈指の都道府県の1つとなっており、隣接の石川県は逆に進学時流入県となっています。



以上より、富山県においては、18歳人口が他県よりも加速的に減少していく上に、大学・短大進学時には、他県へ流出している現状がご理解いただけると思います。

においても、その影響を少なからず受けていると感じており、今後生き残るためにも、18歳人口の減少は受け止めるしかないとしても、高校生が高等教育機関への進学を考えるとときに、富山県内で学び、富山県内に就職できるような環境を整えて、選んでもらえることが大事だと考えています。そうすることにより、富山県全体の課題となっている県外流出を食い止めることに貢献したいという思いもあります。

3. 新学科の開設

上記にある「富山県内で学び、富山県内に就職できるような環境」を整えるべく、富山情報ビジネス専門学校では、次のように考えています。

・「富山県内で学び」

高校生が学びたい分野の学部学科が県内高等教育機関にないと、必然的に県外の大学等を選択せざるを得ません。したがって、高校生のニーズを反映しながら、本校の中に学科の選択肢を増やすことを考えています。

・「富山県内に就職できる」

本校の入学生のおほとんどが県内出身者であり、またほとんどの学生が県内就職を希望しています。県内就職をよりしやすくするためにも、人手不足となっている分野の人材育成と関連付けた学科設置を考えています。

このたび、2022年4月より建築・デザイン学科(建築士専攻、建築CAD専攻、測量士専攻)と公務員学科を開設しますが、上の2つの観点で検討した結果となります。今年度、その学生募集活動を行ってきましたが、なかなか認知度やその業界の魅力を伝ええることができず、入学生確保は決してスムーズには進んでいません。しかしながら、関係協会・企業と連携を図りながら、高校生に“新しい選択肢”を浸透させ、定員充足を目指していく所存です。

本校は、今後も、高校生のニーズと業界ニーズ・企業ニーズのつなぎ役として人材育成する教育機関でありたいと考えており、そうすることによって、地域課題解決拠点としての教育・研究機関として、地域創生・地域活性化に貢献していきたいと考えています。

会員寄稿

地域企業に必要な「地域志向的モチベーション」

株式会社 新日本コンサルタント

代表取締役社長 市 森 友 明

1. エコ通勤取り組みにおける社会的ジレンマ

様々な地方都市が、人口減少社会に対応するべく、拠点集約型のコンパクトなまちづくりを進めていますが、その取り組みにおいて、公共交通の利用（以下エコ通勤）促進は重要です。政府の取り組みにおいても、2018年に「改正都市再生特別措置法」を施行し、都市機能と居住地を集約し、さらには病院や教育施設、商業施設、公共交通の駅や停留所などを、生活サービス機能と居住区域の中に設けることとしています。また、公共交通機関との連携が重視されており、自動車に過度に依存するまちづくりから脱却し、“公共交通機関+歩いて暮らせる”まちづくりへと転換し、生活の質を高めていくことを狙っています。

一方で、エコ通勤への取り組みには、企業や従業員に対するジレンマがあります。エコ通勤への取り組みへの重要性は理解できますが、それに応えようとする、企業にとっては交通費や、オフィスを駅周辺に移転するなどの経費が発生し、従業員にとっては利便性の高い車を利用できず、業務に支障が出たりします。すなわち、企業にとっては、エコ通勤の促進という社会的要請と、収益向上という経営的要請のトレードオフの問題が発生します。では、このトレードオフは、解決できないのでしょうか。この問題を調査するために、弊社の富山本社で勤務する従業員140名余りにアンケート調査を実施し、エコ通勤への態度と、企業業績との関連について、考察してみました。

2. 仕事の意欲が高いと公共交通を愛好する

紙面の量の都合上、アンケートの詳細内容は

割愛しますが、統計解析の結果、次のような興味深い結果が示されました。

- ・「社会問題への関心」が高ければ、「仕事への意欲」が高い。
- ・「仕事への意欲」が高ければ、「エコ通勤への態度」もよい。

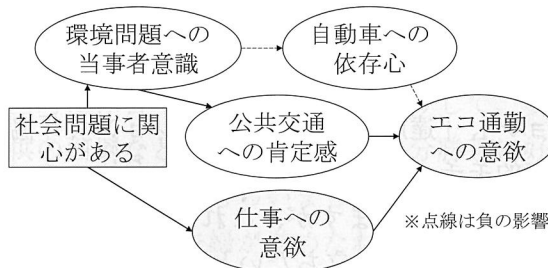


図-1 エコ通勤への態度を規定する構造

図-1は、統計解析手法の一つである共分散構造分析の結果です。このように、企業業績と関連する「仕事への意欲」と、社会課題であるエコ通勤への取り組みに関する「エコ通勤への態度」が関連するとすれば、双方が同時に良化する可能性が調査により示されました。

ただし、この結果は、一地域企業の従業員を対象とした限定的なものであり、また「仕事への意欲」の測定に関しても、企業業績と関連付けるためには、より詳細な調査が必要であると考えられました。したがって、この調査結果をより普遍的なものとするために、インターネットアンケート調査により、対象を全国的に拡大しました。また地域の特性を調査するために、政令地方都市以下に本社がある企業を地域企業、東京23区及び大阪市に本社がある企業を都市企業として、その従業員のアンケートを収集

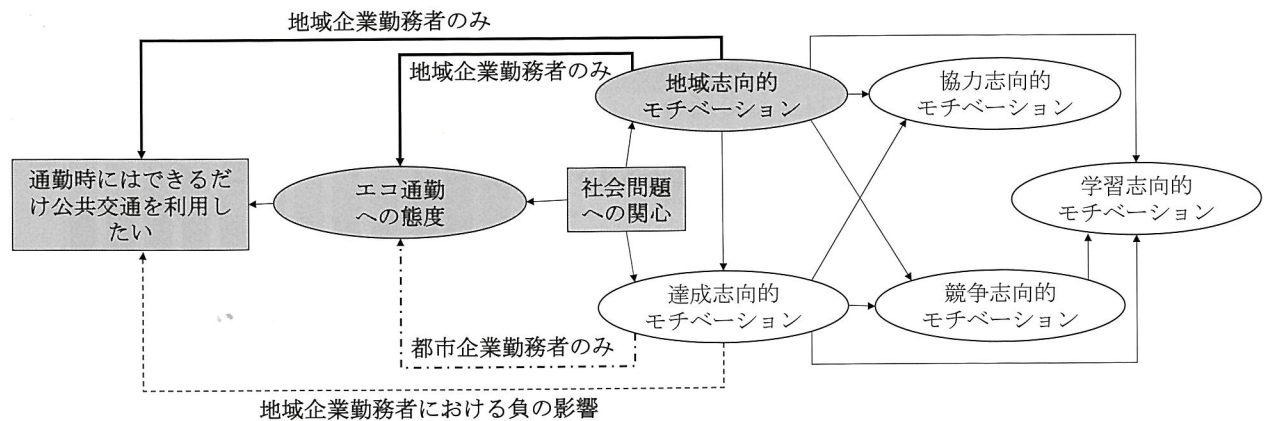


図-2 地域志向的モチベーションの中核的役割を示す因果構造

しました。1,550人中、地域企業勤務者は458名、都市企業勤務者は502名であり、この2群において、比較調査を実施しました。

3. 地域志向的モチベーションの役割

企業業績との関連において、ワークモチベーションに着目しました。ワークモチベーションは、従来の研究により、「競争志向的モチベーション」、「達成志向的モチベーション」、「協力的モチベーション」、「学習志向的モチベーション」がありますが、これに加えて今回は、地域のために役に立ちたいという意図の「地域志向的モチベーション」を、仮定しました。それは、地方と都市の従業員では、この、「地域志向的モチベーション」の効果に顕著な違いが出るのではないかと考えたからです。各モチベーションは、各4問の計20問で構成されていますが、詳細は紙面の都合上割愛します。

統計解析の結果、前調査を支持する、次のような興味深い結果が示されました。

- ・ 地域を良くしようとする「地域志向的モチベーション」は、他のモチベーションを高める中核的要因となり、その影響は地域企業従業員が大きい。
- ・ 地域企業勤務者のみ、「地域志向的モチベーション」が高ければ、「エコ通勤への態度」もよく、エコ通勤を実行する意欲も高い（この関係性は都市企業勤務者には見られない）。
- ・ 仕事をこなそうとする「達成志向的モチベーション」が高ければ、地域企業勤務者はエコ通勤を避ける傾向にあり、都市企業勤務者は、

エコ通勤を選考する傾向にある。

図-2にアンケート結果から示された構造を示します。このように、エコ通勤への態度という社会的要請とワークモチベーションという経営的要請の関係は、地域企業と都市企業で異なることが示されました。一方で、この調査の目的である、エコ通勤への取り組みと企業業績のトレードオフの問題に関しては、地域志向的モチベーションという、自身が住む地域を良くしようという意欲が、その解決のカギであることが示されました。なお、これらを称して「向社会的モチベーション」と称し、これが高い従業員は、仕事のパフォーマンスが高いという結果も欧米の研究から示されています。

4. 地域の測量設計業において

協会企業はそのほとんどが地域密着型企業であり、地域の役に立ちたいという、「地域志向的モチベーション」は、どの会社の従業員の皆さんも高いレベルでお持ちだと思います。今回は、それをエコ通勤への取り組みとの関係に例えましたが、調査結果には、その他ワークモチベーションへの正の関係も示されており、かつ、都市企業従業員よりも高い効果を示していました。一つの事例調査にすぎませんが、我々地域の測量設計業において、地域のことを思う重要性が示されたともいえることから、自社の経営において、社会的要請と経営的要請の両立において、これからも地域志向性をさらに意識する必要があると考えます。

会員寄稿

『節目の四半世紀を迎えます』



有限会社岩田測量設計

代表取締役社長 岩田浩明

私自身この測量業界に携わって36年が経ち、会社設立して早いもので2022年4月で25周年を迎えます。

私は体を動かすのが好きな方で、椅子に座って仕事をするタイプでは無いもので、当初から現在も現場作業の方が向いていると思ってます。

その中で、この長い年月で測量技術は年々に進化して行くこと感じながら、今後どう取り入れて行けば良いのか葛藤しながら学んでおります。

器械のトータルステーションにノンプリズムが装備された時には、危険な箇所など行かなくてもこれで少しは楽になると考えすぐに購入したものです。

自動追尾が装備された時もそうですし、会社にとって活用できる器械はすぐに興味を持ち、販売店に連絡してデモをして頂き、見て触って判断して即決したこともあります。ビックリするのが新製品は重量も軽くコンパクトになっていると思います。

昔は重い器械を持って山を登ったものだと、息子や社員に話をすると嫌われたりしますが、以前に比べると器械システムの進化で、現場作業の時間を短縮して出きますので良いことだと思っています。

これからは、三次元測量・設計が標準になると思われ、新技術の測量機器が活用され現代の測量方法に合わせて、現場対応して行かなければならないと思います。

その分、私を感じるの逆には内業時間を費やしていると実感しています。

作業を終えて会社に戻りパソコンでデータ処理をしている時間が長く、現場作業時間の倍以上は椅子に座ってパソコンと睨めっこしている感じです。そのために40歳過ぎ頃から老眼になり、年々とひどくなり今では私の相棒みたいな状況となっています。

今振り返って見ると何とか25年目を迎えることが出来たのも、当初会社設立に猛反対だった妻のおかげです。

当時は休日や徹夜で仕事をしたりして、妻に子供の面倒などで迷惑をかけ、自分勝手に好きな仕事をやらせてもらいました。ただその息子二人が、私たち夫婦が進めたわけでも無いのに二人ともこの測量業界で働いていることが不思議なことです。

私の体力のことを考えるとあと何年間、現場作業として働いていれるか分かりませんが、息子たちには、業界発展のため頑張ってくださいと言いたいです。

私は測量業をやっているのも今は亡き父に後押しがあったからで、『ある日、父から測量専門学校あるから行って来いよとの軽い一声』で今の人生があるので、今の問題では業界の担い手不足が深刻ですが、自分自身が後押しして協力出来ればと思います。

今後は5年単位での節目を大事にして測量設計業界がどう変化していくか楽しみでもあり、また時代に付いていけるか不安な要素もありますが、若い世代と共に刺激を受けながらこれからの日々の時間を過ごせば良いかなと思います。

最後ですが今まで支えて頂いた皆様には理解して頂き感謝しております。

会員寄稿

～入社してからの事・今後の事～



株式会社 協和測量設計

測量課 宮川 記代

弊社に入社してから、私の日々思うことを今回書かせていただくことになりました。測量のアシスタントとして入社し早くも三年目になりました。入社する前の測量のイメージとして街中や道路で、作業している方々が何かの機械越しに何かを覗いているということぐらいしか思い浮かびませんでした。そういう状態だったので知識としてはゼロスタートどころかマイナスからのスタートです。更には今まで就いてきた仕事とは全く違う職種でありこの年齢になって新しいことを覚えていけるのかの不安、子供を育てながらフルタイムの仕事をやっていけるか心配でした。

子育てと仕事の両立の心配としては入社前の面談で、できる限り対応しますと言ってくださったのでほっとしました。実際はどうなのかというと、とてもありがたいことに急な子供の体調不良にも理解を示していただき対応して下さいます。去年は、コロナ渦の緊急事態宣言が発令されその影響で保育園は自粛登園となり、「どうしよう…」と焦りました。

社長に相談するととても柔軟に対応していただき融通をきかせていただきました。スタッフの方たちにもご迷惑をかけてしまいました皆さんのご協力のお蔭で何とか乗り切ることができました。

子育てや家庭での役割の配慮をしてくださるおかげでそれらの優先順位を下げることなく働かせていただいていることに日々感謝しており

ます。

仕事内容の話になりますが、私の中で「測量」とは、基礎知識ゼロで、仕事をする上では年齢的にも知識的にも先にも述べたようにマイナスからのスタートの仕事内容であるのと、今まで就いてきた仕事とは全く違いました。というのも、結婚する前は某車ディーラーで勤めるスタッフでした。経理をしたり営業が席を外す時にお客様の対応をしたり子供の相手をしたり、自動車保険の計上、車の修理の伝票を作る、車を買ってもらえるような雰囲気を作る等、車を売る、直す以外の仕事をしていました。その後はクリニックの医療コンシェルジュをしていましたが、来られた患者さんへの案内や話を聞くなどクリニックの空間作りに努めていました。これらは仕事内容からわかるように、今の仕事を始める前は自分の仕事が長い間どこかに「形」として残るという仕事をしたことがありませんでした。

「形に残る仕事」というのは初めての事で嬉しい反面大きな責任が伴うなと感じたのです。

私の不安や新しいことを覚えるのは大変だなという気持ちと同様かそれ以上に、ド素人の私に仕事を教えていかなければならない上司や先輩方も、大変だったのではないのかと今では思います。今も十分に仕事ができているとは言えません。申し訳ないくらいに理解するのに時間がかかり、測量のアシスタントという立ち位置ですが、周りにはアシストされてばかりいます。

シビアな数字を求められる仕事なので私の性格上向いていないのではないかと日々思っています。ですが少しずつではありますがCADにも慣れ、「形」を作るという事が楽しいと思えています。

測量の仕事は、地図に残るという事だけではなく災害が起きた現場の測量、土地などの財産を守るための測量、災害を未然に防ぐ為の測量等私が思っていた以上にフィールドは広いのだと少しずつ分かっていきました。また若い世代にも測量という業界の仕事をより身近に知ってもらうために出前講座をしている事も会社に入って初めて知りました。最新の機器での測量やドローンでの測量等、若い世代にはすごく興味深いものがたくさんあると思うので、こういった講座で若い世代が測量の仕事に目を向けてくれたらいいなと感じました。

ある時広い視野で物事をとらえ固定概念をとり払い、想像力をもって仕事をするのが大切だよ、と上司に言われました。仕事のフィールドの広さと、災害を未然に防ぐ為、この場所を測らないと道路を作る時に困る等、形になっていないものを想像して測量していかねばならないから常に新鮮な気持ちで仕事と向き合っているように感じています。

この事から気づいた今後の私の課題ですが、自分自身は保守的な人間で固定概念が凝り固まったような人間です。性格や考え方なのでなかなか180度急に変えるというのは困難だと思っているのですが、一度でも気持ちや考え方が今の自分と変われるように工夫したり、間違えたことから学び発見をしたりしていけるように努力していきたいです。

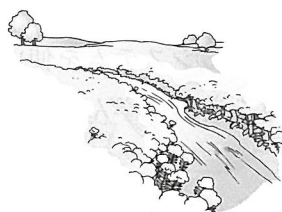
もう一つは、自分のわからないことを教えてもらうのに、相手に伝わるように伝えることです。知識もないのでわからないことを上手く伝えられないのが、すごくもどかしい時がありま

す。伝えられないので自分がわからないところを、今は汲み取ってもらって説明してもらっている感じです。汲み取っていただいている部分を、自分でうまく伝えられるようになりたいですし、今仕事上で使用しているシステムを使いこなせるように測量の基本を着実に学んでいきたいと考えています。

少しずつ何かができるようになり、「嬉しい、楽しい」というプラスの気持ち、うまくできない、表現がわからない等の「不安、悔しい」というマイナス気持ちをバランスよく持ち続け、一緒に働いている皆さんへの感謝の気持ちも忘れず仕事も家庭も充実した日々を過ごしていけるように、毎日を丁寧に取り組んでいきたいと思えます。そして少しでも頼りにされる存在になっていけるよう自己研鑽していきたいです。

会員寄稿

測量設計業界に入って感じたこと



北陸コンサルタント株式会社

設計部 設計第二課 三宅 明日香

1. はじめに

私は北陸コンサルタント株式会社に入社し今年で4年目となります。大学では、土木系の学科で学び、大学で学んだことを生かすことができ、地元の富山の建設コンサルタントである北陸コンサルタント株式会社に入社しました。私は設計部に所属しており、砂防堰堤の設計業務、急傾斜地崩壊防止施設や砂防設備の長寿命化計画策定業務を行ってきました。

2. 感じたこと

1) 実務について

私は実際に仕事をしてみて、入社前に想像していたことと違うところがいくつかありました。同じ内容の設計業務でも対象となる場所の現地の状況次第で条件も変わり、出来上がる構造物も変わってくることや、納品する報告書も実際に検討したことなど細かく記載するので、想像していたより分厚いものになることです。

発注者との打合せは、打合せ後に協議した内容を打合せ簿に漏れなく記載することで、協議内容の理解が図られていると感じました。

砂防施設の現場に実際に足を運び、既設の砂防堰堤、擁壁工や法面工を初めて見たとき、図面で見るとは違い、これらの施設が土砂災害から保全対象等を守る施設であることの実感がわき、設計技術者として責務を感じま

した。

2) 最近の取組みについて

砂防堰堤の計画業務では、「土石流シミュレーションによる氾濫区域の検証」と「3Dイメージの作成」を行いました。土石流シミュレーションでは、三次元地形データを使用し、設定された条件で土石流の流下経路や砂防堰堤による土石流の捕捉効果を検証しました。この検証により、砂防堰堤を整備することの必要性を効果的に説明することが可能となります。

3Dイメージの作成では、三次元地形データと砂防堰堤の3Dモデルを組み合わせ、3Dイメージを作成しました。実際に施工したときの完成イメージを示すことができるので、協議や地元説明の際に互いに明確なイメージを共有でき、図面を提示し説明するより理解度を深めることに役立つのではないかと思います。

3. おわりに

より良い成果品を納めるために新技術を活用していくことは重要であると思います。

私は今後、どのような新技術があるのか調べたり、その新技術を遂行中の設計業務に取り入れたりすることができるのであれば、積極的に活用していきたいと思います。

まだまだ未熟ではありますが、経験を積み重ね日々精進していきたいと思っています。

会員寄稿

測量設計業界に入って感じたこと



朝日コンサルタンツ株式会社

技術部 中橋 萌夏

1. はじめに

私は、転職を機に測量設計業界に入り、2年目になります。学生の頃も前職も測量設計業界とは無縁でゼロからのスタートでした。

私がこの業界に入ろうと思ったきっかけは、女性が現場に出て働いていることに憧れがあった事と、男性がやっていて普通と思われているこの仕事を、女性の自分がどこまで出来るのかということに挑戦してみたい気持ちがあったからです。

現場に出始めてまだ2年目と短い期間ですが、私を感じたことについてお話ししたいと思います。

2. 業界について

(1) 感じたこと

入社する前までは、測量は機械で何かを測るという大雑把なことしか私は知りませんでした。初めて現場に出たときは、聞いたことのない言葉や上司の方達が何を測っているのか全く分かりませんでした。また路線測量、用地測量、地籍測量などいろいろな測量業務があり日々ついていくのに必死です。こんなにも測量というものは奥が深いものなのかと感じています。一番現場で行っている、路線測量では各現場で大切になるポイントが違っていたり、設計の方がどのようなものを求めているかなど、知識のない自分はそれがまだ分からない事が多くあります。知識が無いと作業していく中で失敗を招いてしまう可能性も高めてしまうと思いますし、上司の方達が現場で沢山教えてくださるので無

駄にせず次にしっかり繋げていきたいと思っています。

(2) これからについて

これまで作業してきた中で、仕事の効率を考えるのはとても大切だと感じています。会社には、よく使うトータルステーションやレベル以外にドローンや3Dレーザースキャナーもあります。そして先日私は、ドローンスクールに通わせてもらい無人航空機操縦技能証明などを取得させてもらう機会もありました。いつも使っている機械にプラスして上手く他の機械も使えるようになれば、仕事の効率も上がると思いますので機会に触れ、慣れていき色々な現場で活用していければいいなと考えています。またいつも行っているやり方の他に、もっと効率のいい作業方法がないかなど作業しながら見つけていきたいと思っています。

3. 最後に

最近では現場にも慣れてきて少しずつですが、経験と共に知識が身につけてきているのではないかなと感じています。前までは言われたことをただこなすだけという状況でしたが、最近は、作業をしながら次は何をするか考えられるようになってきました。まだまだ上手いかない事も多くありますが、経験を積み知識を身につけ少しでも早く一人前になれるよう努力していきたいと思っています。

そして今後は測量士などの資格にも挑戦していきたいと考えています。

女性が望む職場環境

～「女性の集い」を実施して～

副会長（総務委員長）

金木 春 男

はじめに

これまで「男の仕事」としてのイメージが定着しているこの業界で、女性の活躍も求められていることを鑑み、女性社員にとってもやりがいのある働きやすい職場環境としていくために、様々なひとの意見を聞き、自分の可能性、働き方を見つけてもらう機会として開催しました。

初めての試みでしたが、会員企業から多数の女性社員に参加してもらい意義のある意見交換会になりました。

各会員企業におかれましては、女性社員が職場環境について日頃から感じていることや要望等について参考にしていただき、女性社員や担い手となる若手社員の増加に繋がることを期待しますとともに、これからも要望に応じてこうした機会を設けていきたいと考えています。

実施要領

日時 令和3年11月5日（金）

10時00分～11時30分

場所 県民会館612号室

出席者

会長 市森 友明

総務委員長 金木 春男

総務副委員長 佐伯 明則

専務理事 富樫 一郎

事務員 奥野喜美子

進行担当 柳はとみ、山口美智代

会員企業からの参加者

10社 18名



市森友明会長の挨拶の後、市森会長、金木総務委員長、佐伯総務副委員長は退席し、進行担当の女性2名により進めてもらいました。

こうしたことで和やかな雰囲気の中で参加した女性からは忌憚のないお話を聞くことができたとの報告を受けました。

この会報におきましては、この時に出された主な意見、要望について事務局から聞き取りしたことをまとめています。

様々な経歴や思いを持ってこの業界に入られています

高校や専門学校、大学で学んだことを活かすために入社した人の他、ハローワークを利用して転職した人、知人の紹介で入社した人など様々ですが、仕事をしているうちに興味が出てきて資格取得にチャレンジした人もいました。

働き続ける上で女性の悩みとして出産し子育てをする不安があり、このことについて経験者からの話を聞いてみました

会社によって対応は異なりますが、育児休暇

を取り、その後時短勤務であったりフレックスタイムを利用したり、中にはテレワークを活用しているという事例もありました。

いずれにしても会社の理解と周りのサポートが大事であるとのことでした。

どうすればこの仕事が続けられるか尋ねてみました

日頃から仕事上で分からないことなどを聞いて仕事が進むように相談してみたり、社内での服装や職場環境といった身近なことについての要望を上司に話して解決している女性もいました。

尚、当日出席される社員の方には、事前にアンケートを取っており、それをまとめたものが以下のとおりです。

多くの人が、上司や仲間とのコミュニケーションが大事で、そのような気軽に話し合える雰囲気のある職場環境を望んでいるようです。



「女性の集い」アンケート総まとめ

●この業界に入ったきっかけは何ですか

1. ハローワークや求人サイトで知ったから 9名
2. 学校で勉強してきたことを活かせる会社であるから 5名
3. 親族や知人から紹介されたから 2名
4. その他… 合同説明会の担当者の説明の雰囲気が良かった 1名

●入社前と後で測量設計業のイメージは変わりましたか。変わったと感じている方は、どのように変わったか教えてください

- ① インフラ整備、災害復旧に不可欠な下支えと感じた 3名
- ② 道路のほか山や森など未開の地へ行くイメージ 2名
- ③ 現場仕事の後の内業が多い 2名
- ④ 女性の技術者、発注者側の女性担当者も増えてきた 2名
- ⑤ 設計業務だけではなく調査業務が増えてきた 1名
- ⑥ 高性能な機器を使いスマートに見えるが

丁寧な作業を積み重ねないと精度の良い成果が出ない堅実な仕事 1名

- ⑦ 知識や技術も重要であるが、関係者に対するプレゼン能力が非常に重要である 1名

●これまでの経験の中で、この仕事をやってきて良かったこと、うまくいかなかったこと等があれば教えてください

◎良かったこと

- ① 自分の仕事完成時の満足感、達成感 8名
- ② スキルアップ 2名
- ③ 構造物や道路への注目 2名
- ④ 現場同行するとリフレッシュできる 1名

◎うまくいかなかったこと

- ① 違う分野から転職による知識不足 4名
- ② ミスした 2名
- ③ 現場での二人作業に、体力と気力不足 1名
- ④ 性別で判断される 1名

- ⑤ 仕事量が多く時間配分できず時間外労働が増える 1名
- ⑥ 地権者協議に難航し、交渉の難しさを感じた 1名
- ⑦ 上司にわからないことを聞くタイミング 1名

●現在、会社で任せられている仕事についてどのように思っていますか。

- 1. 自分の力量に合っていて満足している 11名
- 2. さらに技術・知識を身につけ、高いレベルの仕事がしたい 5名
- 3. 自分にとっては荷が重すぎる 2名
- 4. 今の仕事は自分に向いていないので違う部署で働きたい 1名

●今後、どのようなことをしてみたいですか

- 1. 今の仕事を続けたい 14名
- 2. 今と違う分野の仕事をしてみたい (ex. 総務、営業、計画、設計、測量、GIS等)
- ① 技術から総務へ 1名
- ② 違う仕事したい 2名
- ③ 新事業へのサポート 1名

●また将来管理職になってみたいと思いますか

- 1. 思う 1名
- 2. 思わない 7名
- 3. わからない 9名

●将来、仕事を継続して上で不安を感じたりすることはありますか

- ① 体力、加齢に伴う仕事量や質、拘束時間が長い 7名

- ② 新しい測量技術への不安、知識不足 3名
- ③ 現場にトイレがない 2名
- ④ 産休・育休後の働き方 1名
- ⑤ 今後の建設業への不安 1名
- ⑥ 家庭と仕事の両立 1名

●働き甲斐のある職場とするために、女性の立場から協会や会社に要望することはありますか

- ① トイレ問題、作業着の改善、特に健康面(生理)・相談したい 3名
- ② 男尊女卑が強い、適材適所の配置 3名
- ③ 高齢化、人員不足の解消 2名
- ④ 休暇を増やしてほしい 1名
- ⑤ 資格取得の支援 1名
- ⑥ 福利厚生の拡充 1名
- ⑦ 十分に働き甲斐のある職場である 1名
- ⑧ 自社では育児休暇や時短勤務等の制度があり、業界にもこのような制度や多様な働き方が推進されればよい 1名
- ⑨ 先輩社員などの経験話や相談できる場があればよい 1名

協会の活動紹介

■ 理事会

会 長 市森 友明 副会長 金木 春男 副会長 寺島 雅峰

令和2年度（令和3年1月～3月）

◇第10回理事会

令和3年1月28日（木）

議題

- (1)国土交通省事務所との意見交換会について
- (2)浦山学園関係について

◇第11回理事会

令和3年3月22日（月）

議題

- (1)令和3年度通常総会について
- (2)富山県土木部長・農林水産部長要望について
- (3)浦山学園関係について

令和3年度（令和3年4月～12月）

◇第1回理事会

令和3年4月20日（火）

議題

- (1)令和3年度通常総会について
 - ・定期監査結果報告
 - ・総会議案書（案）
- (2)富山県土木部長・農林水産部長要望について
- (3)北陸農政局長要望について
- (4)浦山学園関係について

◇第2回理事会

令和3年6月7日（火）

議題

- (1)浦山学園関係について
- (2)全測連北陸地区協議会関係について
- (3)日本学校農業クラブ富山県大会平板測量競技会への審査員派遣について
- (4)富山県土木部技術職員研修への講師派遣について

◇第3回理事会

令和3年7月27日（火）

議題

- (1)北陸地方整備局との意見交換会について
- (2)浦山学園関係について
- (3)総務委員会からの報告について
 - ・「会報とやま」
 - ・新規行事「女性の集い」
- (4)技術・経営委員会からの報告について
 - ・三次元測量設計研修会
 - ・第10回設計技術研修会

◇第4回理事会

令和3年9月10日（金）

議題

- (1)北陸地方整備局との意見交換会について
- (2)浦山学園関係について
- (3)総務委員会からの報告について
 - ・女性の集い
- (4)技術・経営委員会からの報告について
 - ・第10回設計技術研修会

◇第5回理事会

令和3年10月27日（月）

議題

- (1)知事要望について
- (2)新春講演会・新春懇談会について
- (3)総務委員会からの報告について
 - ・女性の集い
 - ・会報とやま
- (4)技術・経営委員会からの報告について
 - ・三次元測量研修会
 - ・第10回設計技術研修会
- (5)担い手確保特別委員会からの報告について
 - ・本年度の活動方針について

◇第6回理事会

令和3年12月17日（金）

議題

- (1)新春講演会・新春懇談会について
- (2)知事要望について
- (3)国土交通省事務所との意見交換会について

■ 総務委員会

委員長 **金木 春男** 副委員長 **佐伯 明則**

令和3年度

◇第1回総務委員会

令和3年6月10日（木）

議題

- (1)令和3年度事業活動計画について
 - ・会報とやま
 - ・女性の集い

◇第2回総務委員会

令和3年8月6日（金）

議題

- (1)会報とやまについて
- (2)女性の集いについて

■ 技術・経営委員会

委員長 **寺島 雅峰** 副委員長 **榮 知之**

◇第1回技術・経営委員会

令和3年7月2日（金）

議題

- (1)令和3年度事業活動計画について
- (2)桜井高校の出前講座について
- (3)浦山学園オープンキャンパスへの出展について

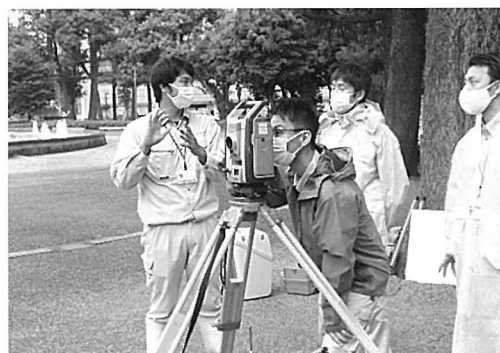
◇第2回技術・経営委員会

令和3年9月22日（水）

議題

- (1)三次元測量・設計研修会について
- (2)第10回設計技術研修会について

◇富山県土木部技術職員測量研修に講師を派遣
令和3年6月29日（火） 県民会館・県庁前公園



◇第10回設計技術研修会

令和3年12月3日（金） 富山県民会館401号室

※開会挨拶 （一社）富山県測量設計業協会

会長 市森 友明

※来賓挨拶 富山県土木部次長

市井 昌彦

※基調講演

1 最近の道路行政について

富山県土木部道路課副主幹

新開 大輔

※会員事例報告

2 UAVレーザ測量の成果による白岩川の堆積土砂の把握について

北陸コンサルタント(株)

中村 浩次

3 BLS式センシング技術・ICT樹木解析技術を活用した森林

資源調査のオートメーション実証について

(株)新日本コンサルタント

升方 祐輔

4 防災・減災に対応した企業立地の推進

～工業団地造成事業基本計画の事例～について

(株)上智

保坂 啓二

5 気候変動により想定される浸水減少変化に対する下水道分野での対策例について

(株)新日本コンサルタント

城岸 巧

6 旅の目的地とされる「道の駅」を目指して

～3Dモデルを活用したランドスケープデザインワーク～について

(株)国土開発センター

島木 正博

7 ダム堆砂問題に対する建設コンサルタントとしての対応提案について

(株)新日本コンサルタント

川村 広樹

※閉会挨拶 （一社）富山県測量設計業協会

副会長 寺島 雅峰



■ 事業報告

○令和2年度（令和3年1月～3月）

- 1月13日 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会に会長出席
（北陸地方整備局 富山河川国道事務所・テレビ会議）
- 1月14日 全測連臨時総会（書面議決）
- 1月19日 地理空間情報産学官連絡会議に会長出席（Web会議）
- 1月22日 令和3年度富山県測量設計政治連盟通常総会
- 1月22日 令和3年度自由民主党富山県測量設計支部通常総会
- 1月22日 新春講演会 ANAクラウンプラザホテルにて新春講演会を開催
市井 富山県土木部次長 ご講演
新田富山県知事 来場、ご挨拶



2月8日 国土交通省事務所との意見交換会
(北陸地方整備局 富山河川国道事務所大会議室、対面+Web)



2月24日～26日 富山大学、富山県立大学 合同企業説明会 (Web)

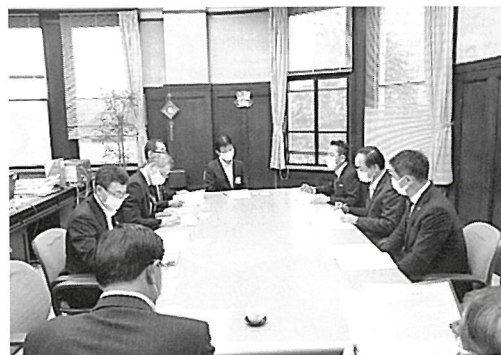
3月10日 農林水産省北陸農政局西北陸土地改良調査管理事務所挨拶<小松市>

○令和3年度

4月16日 定期監査

5月17日 富山県土木部長・農林水産部長に「要望書」提出

- 要望事項：①地域企業活性化に資する受注機会の拡大について
②現場を支える技能人材確保・育成のための取組の推進について
③設計業務における発注金額の拡大について
④照査技術者の検査時同行の免除について



5月20日

令和3年度（一社）富山県測量設計業協会通常総会
ホテルグランテラス富山において、令和3年度通常総会を開催
議案第1号 令和2年度事業報告並びに収支決算承認の件
議案第2号 令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）承認の件
議案第3号 一般社団法人富山県測量設計業協会定款一部変更（案）承認の件
上記議案について、原案のとおり可決承認されました。



4月23日

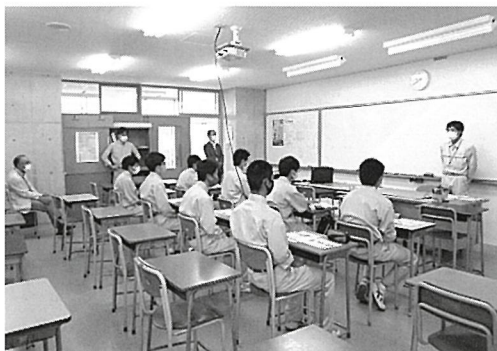
高岡工芸高校 出前講座（第1回）

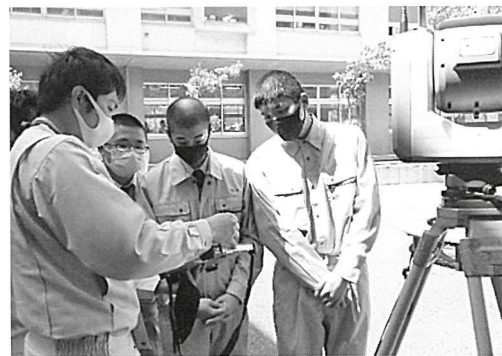
5月21日

高岡工芸高校 出前講座（第2回）

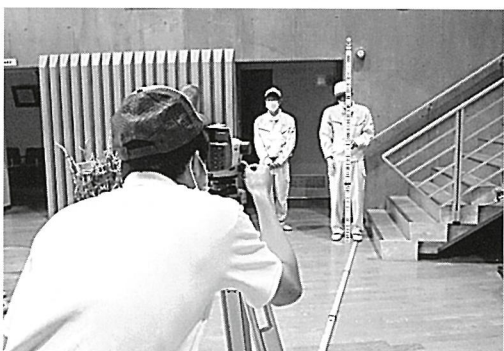
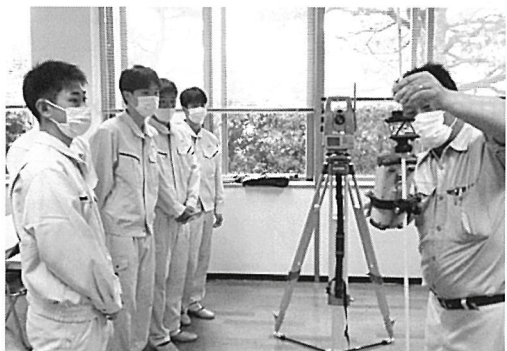
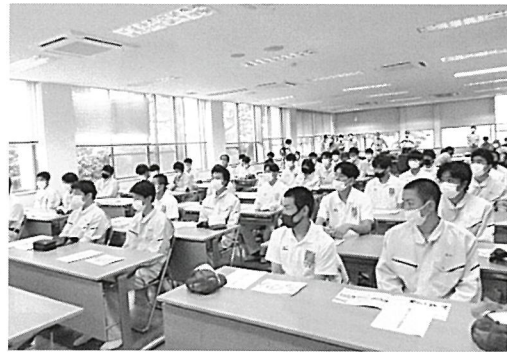
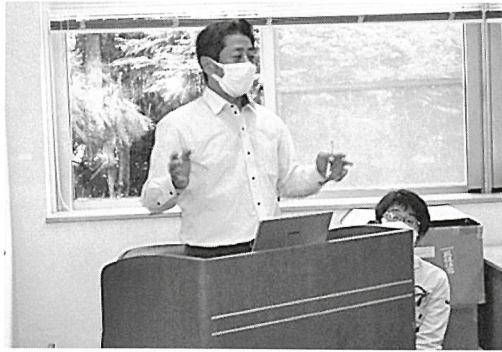
6月18日

高岡工芸高校 出前講座（第3回）





6月4日 桜井高校 出前講座



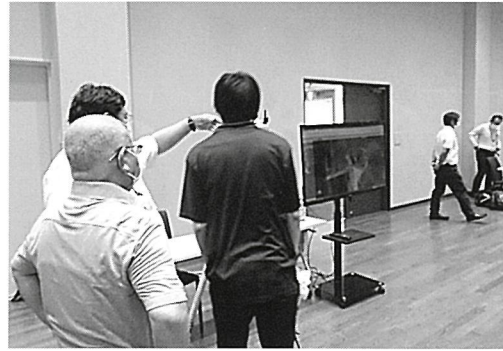
- 6月15日 全測連令和3年度通常総会<東京>
- 6月17日 全測連北陸地区協議会令和3年度定例総会 (Web会議)
- 6月29日 令和3年度県土木部技術職員測量研修に講師派遣

6月29日 足立参議院議員との意見交換会



7月17日 浦山学園オープンキャンパスにて最新機器の実演 5会員を派遣





7月20日 農林水産省北陸農政局長要望<金沢市>
 農政局長に「要望書」提出
 要望事項：富山市水橋地域における大規模ほ場整備事業について



8月4日 日本学校農業クラブ平板測量大会富山県予選に審査員5名派遣





- 8月30日 全測連北陸地区協議会正副会長会議<Web会議>
9月30日 浦山学園校内企業説明会
10月8日 令和4年度予算要望に対する自由民主党富山県連政務調査会5部会との意見交換会
10月20日 全測連北陸地区協議会と北陸地方整備局企画部長との意見交換会<Web会議>



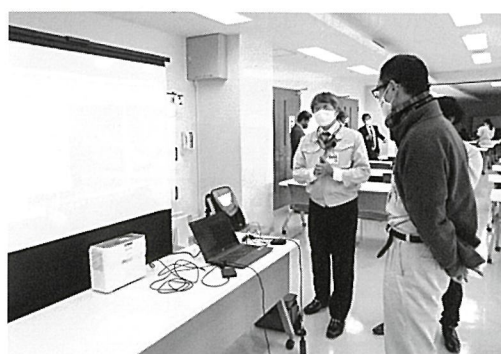
- 10月21日 富山県立大学の学生に企業経営概論について市森会長が講演



10月21日 学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校
測量士養成学校への支援に関する説明会



11月12日 富山県土木部・農林水産部技術職員への三次元測量設計研修会に講師派遣



11月17日 全測連北陸地区協議会
 国土地理院北陸地方測量部長要望<Web会議>



12月2日 富山県立大学企業懇談会
 12月3日 第10回設計技術研修会



12月23日 富山県知事に「要望書」提出 <県庁>
 要望事項

- 1 地域企業活性化に資する受注機会の拡大について
- 2 現場を支える技能人材確保・育成のための取組の推進について



会員名簿

青山測量設計(株)



代表取締役 寺井 宏有

〒939-8202
富山市西田地方町3丁目6-29
TEL (076)421-7082
FAX (076)421-7085

朝日コンサルタンツ(株)



代表取締役 森永 晃

〒935-0023
氷見市朝日丘4-29
TEL (0766)74-0774
FAX (0766)74-0894

(有)井上測量設計事務所



代表取締役 旭井 智士

〒939-8071
富山市上袋286
TEL (076)422-0245
FAX (076)422-0261

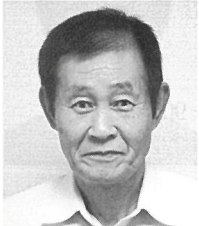
(有)岩田測量設計



代表取締役 岩田 浩明

〒930-0362
中新川郡上市町稗田16-15
TEL (076)473-9252
FAX (076)473-1933

(株)魚津測量設計事務所



代表取締役 高慶 漸

〒937-0853
魚津市宮津1496
TEL (0765)22-2540
FAX (0765)22-2535

(株)碓井コンサルタント



代表取締役 碓井 健

〒930-0992
富山市新庄町3丁目8-2
TEL (076)441-7110
FAX (076)441-7149

栄光測量設計(株)



代表取締役 水橋 善彦

〒939-8015
富山市中川原19-2
TEL (076)423-3314
FAX (076)493-1941

(株)エイ・テック



代表取締役 谷口 謙一郎

〒939-1119
高岡市オフィスパーク12
TEL (0766)62-0388
FAX (0766)62-0377

(株)雄川コンサルタンツ



代表取締役 雄川 薫雅

〒939-1357
砺波市小杉213
TEL (0763)33-5628
FAX (0763)33-2895

北建コンサル(株)



代表取締役 鷺北 慎一

〒933-0941
高岡市内免3丁目3-6
TEL (0766)23-3666
FAX (0766)23-3987

(株)協和



代表取締役 **藪内 克義**

〒933-0838
高岡市北島1406
TEL (0766)22-2100
FAX (0766)22-7602

(株)協和測量設計



代表取締役 **西山 保**

〒936-0808
滑川市追分3242-1
TEL (076)477-1414
FAX (076)477-1445

(株)建技



代表取締役 **五箇 甚盛**

〒939-2702
富山市婦中町田島915-1
TEL (076)422-0361
FAX (076)422-1312

(株)建成コンサルタント



代表取締役 **瀬川 光太郎**

〒933-0014
高岡市野村284-1
TEL (0766)25-6097
FAX (0766)25-5697

建設技研コンサルタンツ(株)



代表取締役 **佐野 伸吾**

〒933-0007
高岡市角602-1
TEL (0766)21-6126
FAX (0766)21-6192

興洋測量(株)



代表取締役 **石丸 等**

〒933-0014
高岡市野村1661
TEL (0766)22-9095
FAX (0766)26-3221

(株)宏和



代表取締役 **堀 英男**

〒939-1735
南砺市小林93-1
TEL (0763)52-5455
FAX (0763)52-6578

(株)国土開発センター富山支店



支店長 **御器谷 正人**

〒939-8213
富山市黒瀬13-3
TEL (076)420-9800
FAX (076)420-9808

(有)酒井工業コンサルタント



代表取締役 **橋本 智樹**

〒939-0734
下新川郡朝日町草野399-1
TEL (0765)82-1332
FAX (0765)82-1339

(有)三玉設計事務所



代表取締役 **谷村 亨**

〒930-0163
富山市栃谷305
TEL (076)434-8088
FAX (076)434-8025

新栄測量設計(株)



代表取締役 **江尻 光則**

〒939-8214
富山市黒崎71-1
TEL (076)492-4520
FAX (076)492-4521

(株)新富測量設計



代表取締役 **小林 峰義**

〒939-8142
富山市月岡西緑町453
TEL (076)429-5480
FAX (076)429-5373

(株)新日本コンサルタント



代表取締役 **市森 友明**

〒930-0857
富山市奥田新町1-23
TEL (076)464-6520
FAX (076)464-6671

新和設計(株)



代表取締役 **初田 浩也**

〒930-0832
富山市中富居16-39
TEL (076)451-7793
FAX (076)451-6623

(株)上智



代表取締役 **金木 春男**

〒939-1351
砺波市千代176-1
TEL (0763)33-2085
FAX (0763)33-2558

(株)スカイラク企画航測社



代表取締役 **立野 正治**

〒938-0031
黒部市三日市3726
TEL (0765)54-0483
FAX (0765)54-0499

(株)太陽設計



代表取締役 **長田 貢**

〒933-0054
高岡市古定塚9-27
TEL (0766)25-0531
FAX (0766)26-5638

(株)高島エンジニア



代表取締役 **高島 正紀**

〒930-0097
富山市芝園町2丁目3-17
TEL (076)433-3112
FAX (076)433-3217

舘下コンサルタンツ(株)



代表取締役 **青木敬太郎**

〒939-3553
富山市水橋の場234
TEL (076)478-0090
FAX (076)478-1190

立山コンサルタント(株)



代表取締役 **秋元 克夫**

〒930-3265
中新川郡立山町米沢77-15
TEL (076)463-0538
FAX (076)462-9090

(株)大代設計



代表取締役 **大代 武夫**

〒934-0052
射水市松木552-2
TEL (0766)84-5665
FAX (0766)84-1059

(株)中部コンサルタント



代表取締役 **高田 雅彦**

〒933-0866
高岡市清水町3丁目5-9
TEL (0766)21-4536
FAX (0766)22-4370

(株)寺島コンサルタント



代表取締役 **寺島 雅峰**

〒930-0985
富山市田中町1丁目14-10
TEL (076)444-1355
FAX (076)444-1217

(株)徳堂測量設計



代表取締役 **徳堂 勲**

〒936-0021
滑川市中川原101
TEL (076)475-7446
FAX (076)475-8421

(株)富山測量社



代表取締役 **経澤 達朗**

〒937-0046
魚津市上村木1丁目22-10
TEL (0765)22-2343
FAX (0765)22-2501

(株)中田測量コンサル



代表取締役 **中田 利男**

〒938-0806
黒部市前沢1918
TEL (0765)52-5550
FAX (0765)52-2999

(株)日本海コンサルタント富山支店



支店長 **田原 雅夫**

〒939-8211
富山市二口町2丁目5-15
TEL (076)422-7645
FAX (076)422-9078

日本海測量設計(株)



代表取締役 **麻生 正則**

〒933-0807
高岡市井口本江538
TEL (0766)24-8221
FAX (0766)23-9549

(株)福島測設



代表取締役 **大島 孝**

〒932-0033
小矢部市芹川1368-1
TEL (0766)68-1655
FAX (0766)68-1676

(株)不二建設コンサルタント



代表取締役 **大畑 洋史**

〒930-0009
富山市神通町1丁目2-34
TEL (076)432-3958
FAX (076)442-9060

北電技術コンサルタント(株)



代表取締役 **多賀 淳二**

〒930-0858
富山市牛島町13-15
TEL (076)432-4899
FAX (076)432-4280

北陸航測(株)



代表取締役 **高柳 陽一**

〒933-0353
高岡市麻生谷400
TEL (0766)31-6033
FAX (0766)31-6044

北陸コンサルタント(株)



代表取締役 **榮 知之**

〒939-8213
富山市黒瀬192
TEL (076)493-7717
FAX (076)493-7720

水野測量設計(株)



代表取締役 **水野 順一郎**

〒930-0916
富山市向新庄1286-27
TEL (076)424-9468
FAX (076)424-1046

(株)村尾地研



代表取締役 **村尾 英彦**

〒939-8262
富山市塚原150
TEL (076)429-2511
FAX (076)429-2603

(株)明和



代表取締役 **佐伯 明則**

〒939-8213
富山市黒瀬225-1
TEL (076)422-5394
FAX (076)422-5894

森井コンサルタント(株)



代表取締役 **森井 純子**

〒930-0214
中新川郡立山町五百石204
TEL (076)463-5020
FAX (076)462-2753

(有)山順測量設計



代表取締役 **山本 康芳**

〒939-0418
射水市布目沢361-1
TEL (0766)53-8555
FAX (0766)53-8550

事務局



事務局長 **富樫 一郎**



事務員 **奥野喜美子**

運営組織図

顧問

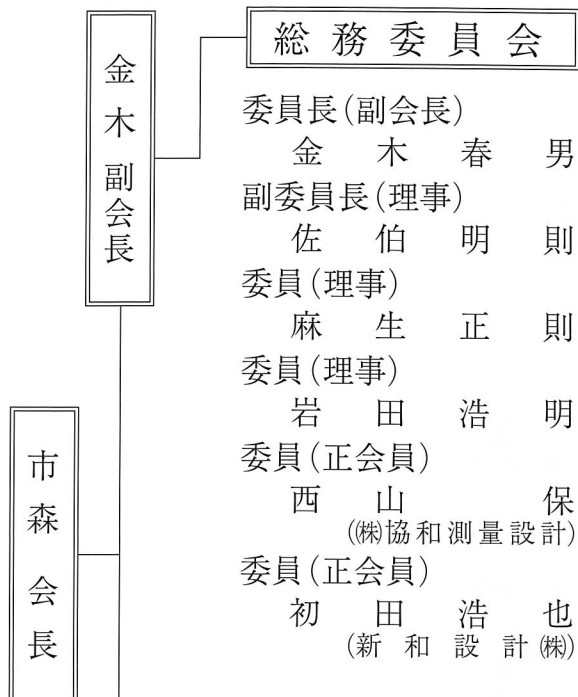
顧問(富山県議会議員)
中川 忠 昭
特別顧問(富山県参与)
坂田 光 文

理事会

会長(総括)
市森 友 明
(株新日本コンサルタント)
副会長
金 木 春 男
(株上 智)
副会長
寺 島 雅 峰
(株寺島コンサルタント)
理 事
榮 知 之
(北陸コンサルタント株)
理 事
佐 伯 明 則
(株明 和)
理 事
森 永 晃
(朝日コンサルタンツ株)
理 事
経 澤 達 朗
(株富山測量社)
理 事
麻 生 正 則
(日本海測量設計株)
理 事
岩 田 浩 明
(有岩田測量設計)
専務理事
富 樫 一 郎

監事 鷺 北 慎 一
(北建コンサル株)
監事 北 井 徹
(北井会計事務所)

委員会



総務委員会

委員長(副会長)
金 木 春 男
副委員長(理事)
佐 伯 明 則
委員(理事)
麻 生 正 則
委員(理事)
岩 田 浩 明
委員(正会員)
西 山 保
(株協和測量設計)
委員(正会員)
初 田 浩 也
(新和設計株)

技術・経営委員会

委員長(副会長)
寺 島 雅 峰
副委員長(理事)
榮 知 之
委員(理事)
森 永 晃
委員(理事)
経 澤 達 朗
委員(正会員)
谷 口 謙 一 郎
(株エイ・テック)
委員(正会員)
水 橋 善 彦
(栄光測量設計株)

事務局
事務局長 富 樫 一 郎
事務員 奥 野 喜美子

令和3年度(一社)富山県測量設計業協会会長表彰者名簿

永年勤続表彰者 27名

【満40年】 3名

松田良一 (株)協和
松井聡 建設技研コンサルタンツ(株)
河合明 (株)中部コンサルタント

【満30年】 6名

松井美香子 朝日コンサルタンツ(株)
伊東輝往 北建コンサル(株)
森越華代子 北建コンサル(株)
瀧井季宏 (株)中部コンサルタント
津田寿夫 館下コンサルタンツ(株)
谷崎正典 (株)福島測設

【満20年】 9名

岡崎太郎 (株)国土開発センター富山支店
沖村浩史 (株)国土開発センター富山支店
坂林智 (株)国土開発センター富山支店

尾山洋二 (株)上智
岸川元信 (株)上智
佐野晶子 (株)上智
高嶋一秀 (株)大代設計
高畑悟史 (株)福島測設
北川弘 (株)福島測設

【満10年】 9名

森正治 北建コンサル(株)
岡本英明 北建コンサル(株)
戸井朱夏 (株)建成コンサルタント
堀江利明 (株)新日本コンサルタント
森田信彦 (株)新日本コンサルタント
道木健 (株)新日本コンサルタント
渡邊司 (株)福島測設
朝田要 北陸航測(株)
森井昭二 北陸コンサルタント(株)

会員数の推移

○会員数

(令和4年1月1日現在)

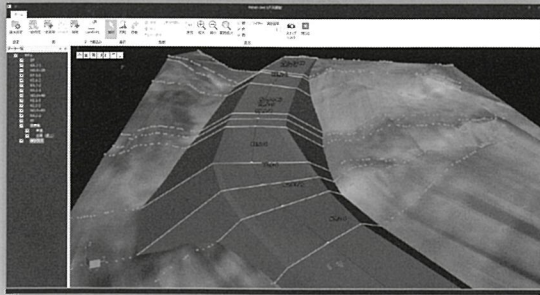
年 度	会員数
昭和41年度	16
昭和42年度	24
昭和43年度	24
昭和44年度	32
昭和45年度	31
昭和46年度	40
昭和47年度	38
昭和48年度	40
昭和49年度	41
昭和50年度	45
昭和51年度	47
昭和52年度	51
昭和53年度	51
昭和54年度	52

年 度	会員数
昭和55年度	52
昭和56年度	54
昭和57年度	54
昭和58年度	53
昭和59年度	55
昭和60年度	54
昭和61年度	53
昭和62年度	52
昭和63年度	54
平成元年度	52
平成2年度	53
平成3年度	57
平成4年度	60
平成5年度	60

年 度	会員数
平成6年度	61
平成7年度	63
平成8年度	62
平成9年度	63
平成10年度	63
平成11年度	63
平成12年度	63
平成13年度	61
平成14年度	60
平成15年度	61
平成16年度	60
平成17年度	60
平成18年度	52
平成19年度	50

年 度	会員数
平成20年度	47
平成21年度	49
平成22年度	49
平成23年度	48
平成24年度	47
平成25年度	48
平成26年度	48
平成27年度	49
平成28年度	49
平成29年度	49
平成30年度	49
令和元年度	49
令和2年度	48
令和3年度	48

加速するインフラ分野のDXを、各種ソフトウェアがサポート。



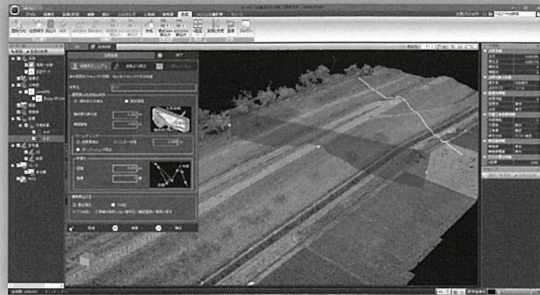
TREND-ONE

測量CADシステム【トレンドワン】

航空写真や点群データなど巨大なデータも手軽に扱えるパワーを備え、基準点・水準・用地・路線縦横断測量から、3次元計測、防災計画支援まで対応できる業界シェアNo.1の測量CADです。



製品情報



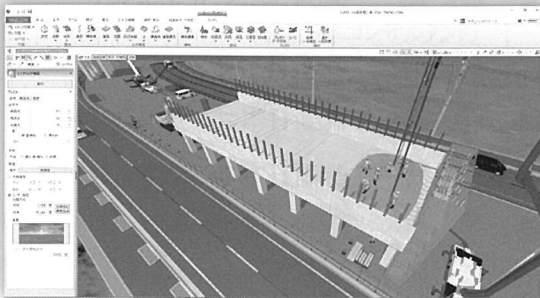
TREND-POINT

3D点群処理システム【トレンドポイント】

膨大な点群データも快適に扱え、豊富なフィルターによる加工や断面作成、メッシュ土量計算など、3次元計測に欠かせない機能を装備する3D点群処理システムです。



製品情報



TREND-CORE

CIMコミュニケーションシステム【トレンドコア】

BIM/CIM対応を前提に開発された3DCADシステムで、2次元図面から簡単に3Dモデルを作成できます。現況点群データに計画モデルを合成し、様々なシミュレーションに対応します。



製品情報



CIMPHONY Plus

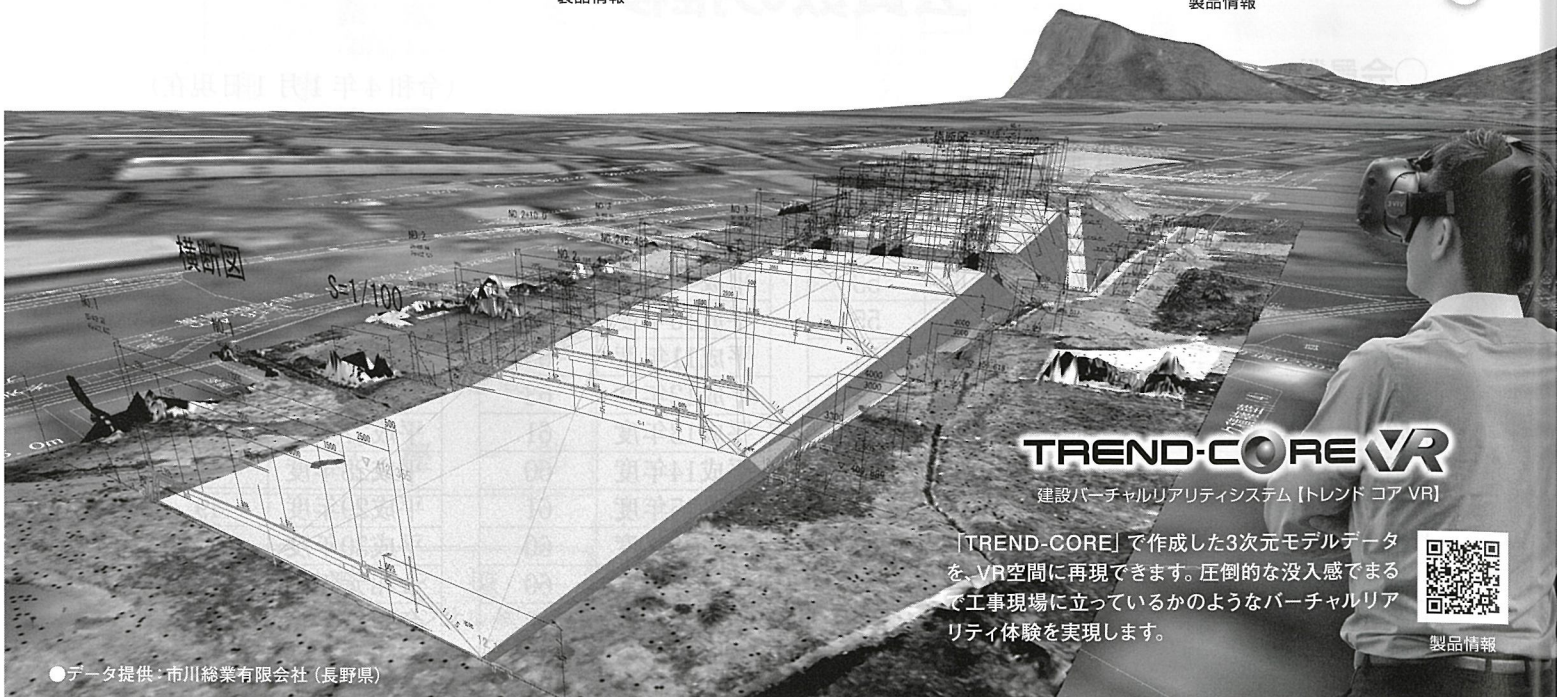
クラウドサービス【シムフォニープラス】

クラウドに展開された3次元地図上に、現場写真や映像、図面や3Dモデルなどの現場データを時間軸と位置情報で管理する、新しい概念を持ったクラウドサービスです。



製品情報

3次元で、仕事が変わる。



TREND-CORE VR

建設バーチャルリアリティシステム【トレンドコアVR】

「TREND-CORE」で作成した3次元モデルデータを、VR空間に再現できます。圧倒的な没入感でまるで工事現場に立っているかのようなバーチャルリアリティ体験を実現します。



製品情報

福井コンピュータ株式会社

本社 / 〒910-0297 福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6

札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・さいたま・千葉・東京・川崎・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・山口・福岡・熊本・別府・宮崎・鹿児島・那覇

●製品情報・カタログ請求・各種お問い合わせは

【福井コンピュータグループ総合案内】

0570-039-291


福井コンピュータ <https://const.fukui-compu.co.jp>

「測る」「計る」「量る」「図る」、
「はかる」を届けて75年。

長さを測る、時間を計る、
重さを量る。合理化を図る。
ものを「はかる」ことは
あらゆる事象を数値化し、
次の時代の正確なカタチを
求めるための原点です。



計測器システム総合商社

 株式会社 堀江商会

〒939-2632

富山市婦中町外輪野1430-1

TEL : 076-403-6771

FAX : 076-403-6772

URL : <https://horieshoukai.jp/>

測量機器・測量機器点検及び校正・
i-construction対応製品・計測機器・
気象観測機器・水文観測機器・
保守点検業務・オフィス什器・複合機

おかげさまで75周年

まるごとお任せ
オフィスのお悩み

コピー機 プリンタ

低コスト2色印刷

電話機

ひかり回線
携帯電話内線
通話録音

パソコン

ネットワーク
セキュリティ対策
無線LAN環境構築

介護支援

システム構築
音声日報システム
介護家具など

介護ロボット

介護従事者
負担軽減
導入指導・支援

省エネ

LED照明は取付簡単
すぐ節電
省エネエアコンで
快適節電

オフィス家具

メーカー問わず
最適をご提案

ウォーターネット

おいしい水
安全な水
ご提供

株式会社 河上事務機

富山市西大泉17-26

TEL : 076-424-7610

FAX : 076-424-7637

Mail : info@kawakamijimuki.com

今より便利に。

今よりお得に。

あなたのイメージを
より鮮やかな形にします。

Digital
&
Printing

有限会社 **松本印刷**

代表取締役 **松本清孝**

富山市上本町6番7号

TEL (076)421-2665(代)

FAX (076)423-6701

編集後記

近年、人口減少が進む中で特に少子化傾向が社会問題として取り上げられています。我々の業界においても同様に、担い手不足が大きな課題として取り上げられ、その対策に様々なかたちで取り組んでいるところです。

一般的には子供のころから将来の仕事を考える中で、測量設計業というのは接する機会が少ないことから、なかなか選択肢の中に入らないのだらうと思います。

これまで小学生を対象に地図教室や測量の体験学習を行ってきました。さらに高校生や大学生にも出前講座を通して測量設計業の仕事を理解してもらう機会をつくっています。

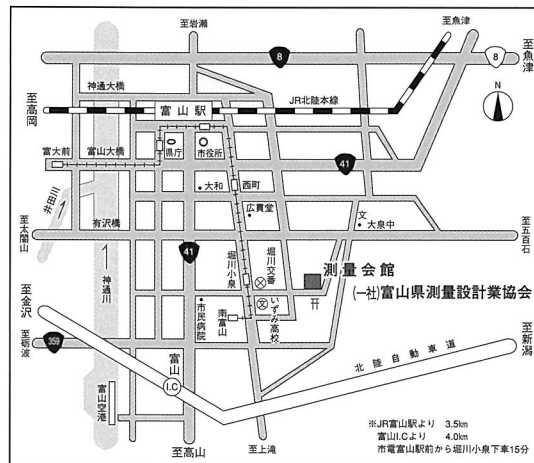
今年はこの活動に加え、専門学校での測量講座開設の協力や業界を紹介するPRビデオの作成、また女性が働きやすい環境整備についての意見を聞くなど、担い手確保やこれまでのイメージを改善していくことに取り組みはじめました。

こうした活動を通して人材を確保し育成することで、住民が安心して暮らせる安全な国土づくり、そして災害発生時の早急な対応といった重要な役割を継続して担っていきたいと考えています。

今後とも関係機関からご支援を賜りますとともに、当協会会員皆様のご理解とご協力宜しくお願いいたします。

最後に編集にあたり、ご多忙中にもかかわらずご寄稿賜りました皆様方に厚くお礼申し上げます。

総務委員長 金木 春男



一般社団法人富山県測量設計業協会

発行 令和4年1月
〒939-8094 富山市大泉本町1-12-14
TEL076-422-3003 FAX076-422-5341
URL:<http://www.tomisoku.or.jp>
e-mail:jimukyoku1@tomisoku.or.jp
印刷 有限会社 松本印刷



国道8号 豊田新屋立体交差事業
富山市新屋交差点付近上空から東側方面を望む



国道8号 豊田新屋立体交差事業
富山市小西地先上空から西側方面を望む